

## 令和元年10月の台風19号により被災した 清水下頭首工の復旧工事

【県央支部】 県央地域県政総合センター農政部農地課

一級河川相模川にある清水下頭首工は、導流堤440m及び洪水吐25m、全長465mの県有土地改良財産であり、相模原市田名や当麻の水田36haに用水を供給する農業用取水施設です。

令和元年10月に来襲した台風19号の豪雨により、同日夜間に相模川城山ダムから毎秒4千トンを超える放流があり、ダム下流約6kmに位置する本頭首工の導流堤及び洪水吐の護岸工が被災し、激甚災害の指定を受けました。

台風後も河川水が引かない中で、ドローンを活用するなどして、12月の災害査定を受けるとともに、迅速に復旧工事の設計図書を取りまとめ、令和2年2月に工事契約を締結しました。

工事完成直前の4月中旬に春の豪雨により更に被災を受けましたが、河川管理者の指示により出水期となる5月から10月までは河川内工事ができない状況のため、取水堰がある左岸側への流路の掘削を行うなどして、5月の用水取水に間に合わせることができました。

復旧工事は、河川管理者の指示のとおり一旦休工としましたが、令和2年11月から工事を再開し、災害復旧費1億2千7百万円余を投じ、令和3年1月12日に完工しました。

復旧工事の内容は、導流堤主要構造の蛇籠工復旧延長7,250m(φ45cm)、流路掘削6,100m<sup>3</sup>、テトラポッド据付82個、六脚ブロック据付267個、仮設工として大型土のうによる河川締切り1,819袋、仮設道路4,340m<sup>3</sup>等となっています。

